

EPAハノイ便り

8月号

平成28年8月31日

ARCベトナム校発行

・専門講義授業行われる・

8月1日から13日の2週間にわたって、日本から看護・介護の先生方がおいでになり、候補者208名に対して専門講義授業が行われました。また、15日からの週では、いくつかのクラス毎にベトナムの介護施設を訪問し、本当の利用者さんに対しての介護補助の仕方を学習しました。

ベッドメイクを行う候補者



専門講義期間中は看護師候補者16名は1グループで、介護福祉士候補者192名は3グループに分かれ、授業に臨みました。

〈介護〉◆前半の1週間

前半の1週間は講義授業でした。先生方からいろいろと大切なことを教えていただきました。利用者さん(施設入居者)は人間らしい生活ができることが重要であるということ。そして、日本の医療保険制度の仕組み、高齢者の身体的、心理的特徴なども詳しく説明していただきました。先生方は写真、ビデオを使用し、利用者さんがよくわかる病気のことをお話しくださり、具体的にイメージでき、介護のコミュニケーションの仕方がよくわかりました。また、EPAベトナムの先輩方の仕事、生活も見せてくださり、実際の日本でのことを想像することができ、とても役に立ちました。1週間が終わるころには、早く日本へ行きたいと思うようになりました。

〈介護〉◆後半の1週間

後半は実技演習です。まず、介護の基本を確認しました。介護援助の意味、働き方と考え方です。そして、実際の実技演習に移りました。実技演習では17グループに分かれ実際の介護技術を具体的に学びました。

1週間を通して、利用者さんの日常生活を介助すること、つまり、ベッドメイクの方法や、食事介助、排泄介助の方法を具体的に勉強しました。また、介護

が必要となる、主な疾患や後遺症について学びました。利用者さんが長期にわたって安静状態が続くことよって起こる身体機能の低下、それが原因でいろいろな障害が起こってしまうこと、そしてそうならないように予防するためのいろいろな方法も学びました。

候補者全員が集中して先生方の授業を聞き、積極的に授業に参加していました。この授業を通して、介護福祉士の実際の仕事が想像できるようになりました。誰もが介護福祉士として日本の施設で働きたいと思ったようで、最後の日はテスト、全員が1回で合格し先生方もとても喜んでくださり、私たちもうれしかったです。

〈看護〉

授業はとても面白かったです。先生が教えてくださいましたことはどれもとても役に立つことばかりでした。ベッドの準備、寝巻きの着替え、ほう・れん・そう(報告、連絡、相談)、ボディ・メカニクスなど。特に「ほう・れん・そう」は仕事に必要なことだと思いました。理論の授業で勉強した知識をきちんと実践に移すことが一番大切だと思っています。

ベトナムの看護師と日本の看護師はいろいろな点が違っています。ベトナムでは医師と看護師がチームを組んで仕事をします。日本ではそれぞれ別々の仕事をしています。ただし、看護師としての基本的な技術は同じです。

実技演習の授業は思ったより難しかったです。ベトナム

ナムでも日本でも看護師たちは、熱心に看護の仕事をしていきますが、中でも一番大切なことは、病気の人の健康が回復することです。この実技演習を行うことによりボディ・メカニクスの重要性を強く実感できました。

私たち候補者が、日本へ行って働くためには、まず日本語を勉強しなければなりません。12月の試験まで残された時間はそんなに多くはありません。残りの時間を計画的に、はじめに、一所懸命にがんばろうと思っています。

***看護記事は3組ブイ・ティ・トゥさんのインタビューを元に記事にしました。

(14組 ハイ、ロアン、チュン、ティ・チャン、フォン、チン)

・所外学習・介護施設訪問実習・

8月15日から19日にかけて、候補者は介護施設を訪問し、実際の介護の仕方を勉強しました。

私たちが介護施設を訪問したのは今回が初めてです。空気もおいしく、景色もよい所でした。また、この施設では珍しい鳥などの動物をたくさん飼っていて、そのどかな鳴き声が聞こえたりして、とてもいい気持ちでした。

施設の社長さんと働いている職員さんたちは、私たちにいろいろなことを詳しく教えてくださいました。専門講義期間中の勉強では、利用者さんの移乗介助(車椅子などに移動するための補助のこと)は、そん

なに難しくはないと思っていましたが、違いました。本当の利用者さんは、重しなかなか体が動かなくて、とても難しく、自分の力のなさがっかりしました。

利用者さんたちはお昼ご飯を11時にとるようになっていきます。3人を除いて、他の利用者さんたちは自分で食事をするができます。その3人



利用者さんの移乗介助を行う候補者

に対しては施設の職員の人が食事介助をしていました。利用者さんたちは、食事に30分〜40分ぐらいかかりました。食事が終わると、元気な利用者さんたちは自分で部屋に戻りますが、重い病気の利用者さんは、部屋まで移動の介助を受けていました。

この訪問実習で一番印象に残ったことは、入浴介助です。最初はちょっと恥ずかしかったですが、職員の人から詳しく教えていただいた後で、自分でもやってみました。簡単な会話をきっかけにして、利用者さんとの距離が近くなった気がしました。利用者さんがニコニコ笑ってくれ、私もうれしかったです。本当にやりがいのある仕事だと思いました。

この施設訪問を終えて、介護施設での仕事が詳しくわかるようになりました。これからは、毎日新鮮な気持ちで勉強に取り組みると思います。本当に貴重な経験ができました。この訪問に携わってくださったみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

(14組 ビン、フォン・チャン、10組 ゴック)

今月号の記事はいかがでしたでしょうか。これまでは、日本語の学習がほとんどでなかなか看護や介護のことを考える余裕のなかった候補者たちですが、今回の専門講義、所外学習を通して、実際の仕事と日本語の学習が繋がったと感じています。12月の日本語能力試験まであと3カ月、全員にラストパートをかけてもらいたいと思っています。(た)